

サーマルカメラによる 異常行動検知システム



サーマルカメラによる異常行動検知モデル

■ 障害のある方々転倒事故の実態

01

- ・ 障害をお持ちの方々のうち、在宅で生活されている方の約60%が転倒を経験しており、そのうち約半数に外傷が確認されています¹。
- ・ また、障害者支援施設における入所されている方々の人身事故のうち、転倒・転落が約85%を占めており、その中のおよそ70%が骨折に至っています²。

■ 転倒早期検知の必要性

02

- ・ 転倒後30分以内に発見・対応した場合、重度の合併症リスクが約40%減少します²。
- ・ しかし、転倒の発見が90分以上遅れた場合、入院期間が20%以上延長し、再転倒リスクも1.5倍に増加します³。

■ トイレにおける転倒事故の現状とリスク

03

- ・ トイレは、日常生活の中で転倒事故が多い場所のひとつであり、居室、食堂に次いで3番目に多く発生しています（全体の12.2%）⁴。
- ・ 特に、車椅子利用者が便器への移乗動作を行う際にバランスを崩し、骨折や打撲といった事故につながるケースが多数報告されています⁵。

※ソース

- 1) 『慢性期在宅障害者を対象とした転倒に関する状況調査』第42回日本理学療法学会大会 抄録集（平成18年）
- 2) 『介護サービスの利用に係る事故の防止に関する調査研究事業報告書』（公益財団法人 介護労働安定センター、平成30年3月）
- 3) 厚生労働省『令和3年度 高齢者介護安全推進調査』（令和4年）
- 4) 『介護老人保健施設入所者の転倒発生状況 ― 移動手段に着目して ―』日本転倒予防学会誌 2巻3号:23-32, 2016
- 5) WAM NET「第9回：排泄介助中に側を離れ転落事故」, 2013-02-20

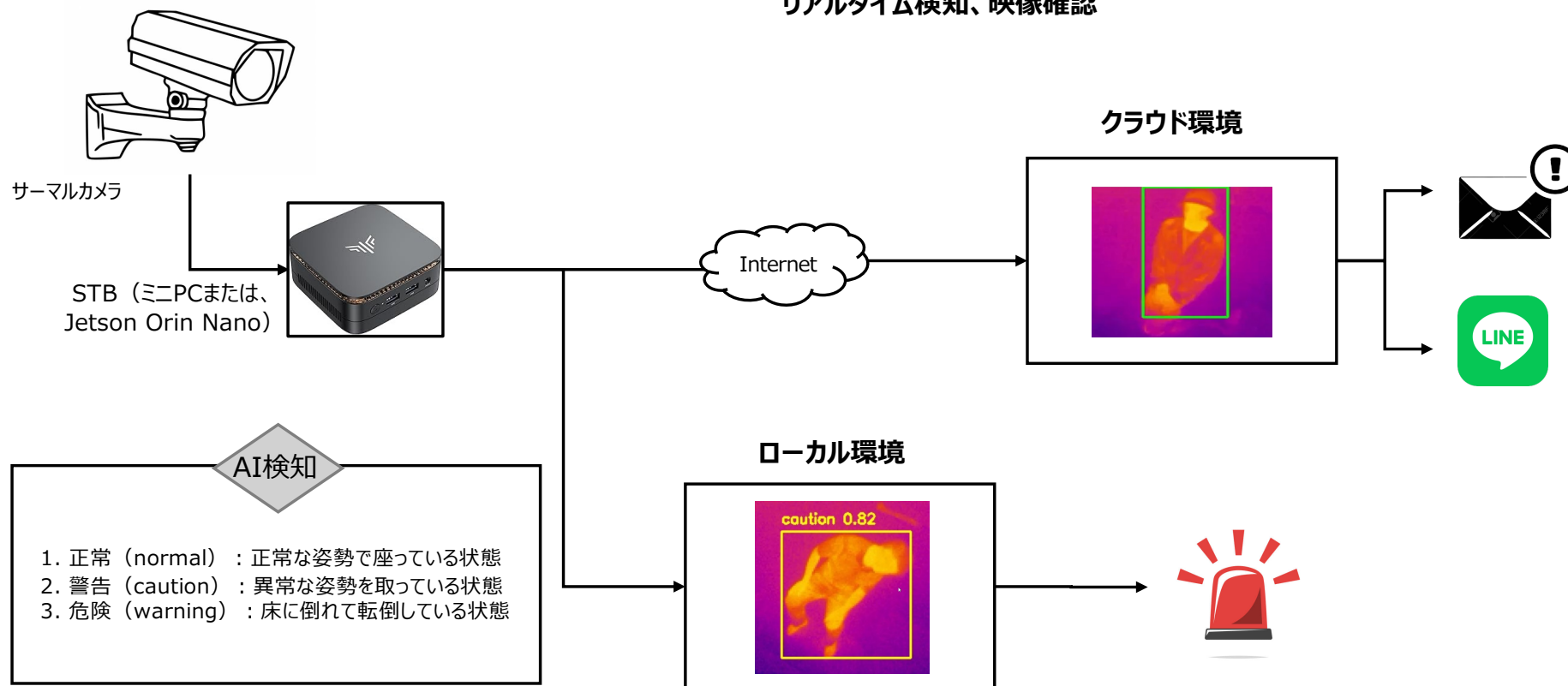
サーマルカメラによる転倒検知

- 転倒に対して迅速に対応することで、介護度の悪化を約30%抑制可能です⁶。
- 熱画像ソリューションは、転倒の発生をリアルタイムで検知し、即時に通知することで、医療従事者や介護者（または保護者）が速やかに必要な処置を行えるようサポートします。
- 予防ケアの観点から深刻な負傷に進ことを予防・最小化に期待できます。
- トイレ内での転倒事故、10%以上という無視できない現実。プライバシー侵害の懸念を無くした検知機能により安全を確保いたします。

モニタリングシステム構成



リアルタイム検知、映像確認



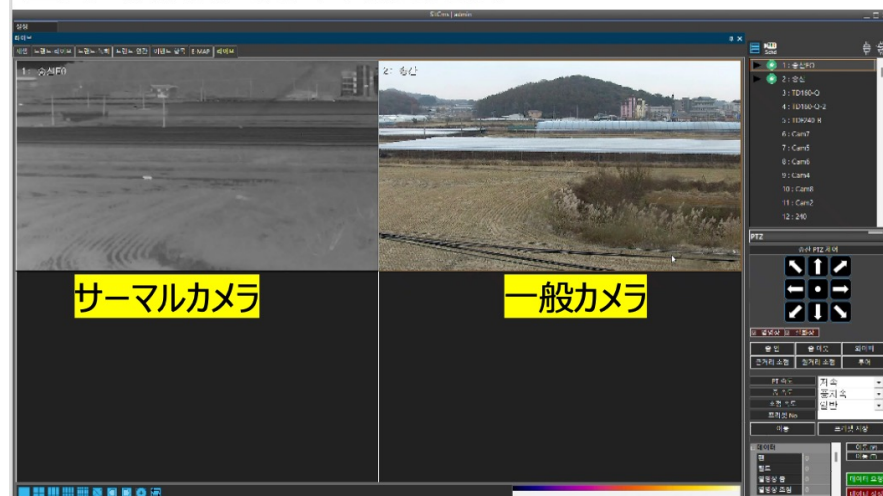
➤ ローカル環境、またはクラウド環境どちらでも利用可能。

サーマルカメラ検知例

異常行動検知 (AI)



昼間の猫検知 (カメラ映像と比較)



夜間の人検知 (カメラ映像と比較)



夜間の猫検知 (カメラ映像と比較)

